

永平寺町学校のあり方検討のためのアンケート調査 結果概要

児童・生徒が望む教育を受けられる環境について

小学校や中学校に通う児童・生徒がこれから学校でやってみたいことについて、どの項目もやってみたいと考える割合(「ぜひやってみたい」と「やってみたい」の合計)が 50%を超えています。

特に、プログラミング教育や最先端技術を学ぶこと、学級の仲間と一緒にいるグループ学習については、ぜひやってみたいという回答が 50%を超えています。

一方で、小学校教員、中学校教員の調査をみると、ICT 教育の環境の整備が十分にできているという回答は約5~14%となっています。

小学生・中学生調査(1) 3頁 参照

小学校教員調査(2) 4-5頁 参照

中学校教員調査(2) 4-5頁 参照

子どもたちがやってみたいと考えているニーズに対し、しっかりと応えられる環境を整備していくことが重要です。

小学校との関わりで地域に期待すること

小中学生保護者、幼稚園・幼稚園保護者、小学校教員のすべての調査において、小学生の子どもたちと地域の関わりについて、登下校の安全をサポートしてくれることを期待する人が多くなっています。

また、地域住民の調査において、小学校との関わりで継続的に協力できることで、登下校の安全をサポートすることという回答が 50%を超えています。

小中学生保護者調査（3）9頁 参照

幼稚園・幼稚園保護者調査（2）5頁 参照

小学校教員調査（4）7頁 参照

地域住民調査（3）6頁 参照



保護者、教員のニーズと地域住民にできることが一致しており、地域で子どもたちの安全をサポートしていくことが重要です。

また、小学校教員の調査では、地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援してくれることを期待する人が 70%を超えています。

一方で、地域住民の調査において、地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援できると回答した人は 20%程度となっています。

小学校教員調査（4）7頁 参照

地域住民調査（3）6頁 参照



小学校のニーズに対し、地域で対応できる人が限られていることから、地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援できる人と学校をつなぐ取組を充実するとともに、これらの学習支援ができる人材を育成することが重要です。

ただし、このような取組をすべて教員が担うことは、業務の増加につながり、働き方改革に逆行することになります。学校と地域をつなぐコーディネーターの存在が必要であり、そのようなシステムづくりが求められます。

中学校との関わりで地域に期待すること

小中学生保護者、幼稚園・幼稚園保護者、中学校の教員のすべての調査において、中学生の子どもたちと地域の関わりについて、職場や就業に関わる体験活動の支援を期待する人が多くなっています。

一方で、地域住民の調査において、中学校との関わりで継続的に協力できることで、職場や就業に関わる体験活動を支援できると回答した人は 20%程度となっています。

小中学生保護者調査（3）19 頁 参照

幼稚園・幼稚園保護者調査（2）13 頁 参照

中学校教員調査（4）7 頁 参照

地域住民調査（3）10 頁 参照



保護者や中学校のニーズに対し、地域で対応できる人が限られていることから、職場や就業に関わる体験活動を充実するとともに、これらの支援ができる人材を発掘・育成することが重要です。

このような取組をすべて教員が担うことは、業務の増加につながり、働き方改革に逆行することになります。学校と地域をつなぐコーディネーターの存在が必要であり、そのようなシステムづくりが求められます。

他校との交流等について

小中学生保護者調査において、他校との交流について、他の項目と比べて満足度が低く、不満を感じる人が多くなっています。

また、小学校教員調査、中学校教員調査において、他校との交流ができていない(「あまりできていない」と「ほとんどできていない」の合計)という回答が 50%を超えています。

小中学生保護者調査 (2) 7-8 頁、(2) 17-18 参照

小学校教員調査 (2) 4-5 頁 参照

中学校教員調査 (2) 4-5 頁 参照

教員・保護者ともに、町全体での交流が課題だと考えており、積極的に対応していくことが重要です。

コーディネーターや人材バンク、予算的支援により町全体でカリキュラムをつくって、探究的なプロジェクト学習を協働で展開することが期待されます。

また、町内には自然、歴史、大学等、魅力的な資源・教材が豊富にあります。地域の人々は学校に対して協力的であり、地域の教育力として大きな資本となります。

これらの地域資源、資本を活用し、旧町村のエリアを越えた取組、協働が必要です。ICT 等を活用することで、地域全体で学び合いが深まるよう、今後のカリキュラムを協働で開発していくことが必要です。

コロナ禍への対応について

小中学生保護者調査において、ICT 教育環境の整備について満足度が低くなっており、ICT を活用し、リモートやオンライン型の授業ができる環境を整備する必要があります。

小中学生保護者調査 (2) 7-8 頁、(2) 17-18 頁 参照

対面型の教育とのバランスが大切で、色々な状況に対応できる備えが必要です。

また、ICT の活用に当たっては、教員の研修も必要です。

小中学校の統合

小中学生保護者、幼稚園・幼稚園保護者、地域住民、小学校の教員のすべての調査において、ある程度の適正人数を確保するために、小学校の統廃合を仕方ないと思う人が 50%を超えており、統廃合を必要と考える声が多くなっています。

特に幼稚園・幼稚園保護者調査では、統廃合は仕方ないという回答が 65%を超えており、小中学生保護者や地域住民よりも統廃合を必要と考えていることが伺えます。

小中学生保護者調査（4）10 頁 参照

幼稚園・幼稚園保護者調査（3）6 頁 参照

地域住民調査（4）7 頁 参照

小学校教員調査（5）8 頁 参照

小中学生保護者、幼稚園・幼稚園保護者、地域住民、中学校の教員のすべての調査において、ある程度の適正人数を確保するために、中学校の統廃合を仕方ないと思う人が 50%を超えており、統廃合を必要と考える声が多くなっています。

特に幼稚園・幼稚園保護者調査では、統廃合は仕方ないという回答が 65%を超えており、小中学生保護者や地域住民よりも統廃合を必要と考えていることが伺えます。

小中学生保護者調査（4）20 頁 参照

幼稚園・幼稚園保護者調査（4）14 頁 参照

地域住民調査（4）11 頁 参照

中学校教員調査（5）8 頁 参照

現在の教育に満足を感じている保護者が多く、今の教育環境を存続してほしいと考えており、適正な規模での学校運営を続けることで、より一層子どもたちの可能性を伸ばして欲しいと考えていることが伺えます。

学級・学年の規模について

小学校について、1学級最低 10 人は必要で、20 人前後の人数が適正だと答える教員が多くなっています。

また、1学年の児童数について、20～30 人が適正だという回答が多く、約 60 人まで回答が広がっていることから、1学級 20 人前後で1学年が2～3の学級から成り立つことを適正と考える教員が多くなっています。

中学校について、1学級最低 20 人は必要で、20 人前後～30 人の人数が適正だと答える教員が多くなっています。

また、1学年の生徒数について、40～49 人が適正だという回答が多く、約 110 人前後まで回答が広がっていることから、1学級 40 人前後で1学年が 3～4 の学級から成り立つことを適正と考える教員が多くなっています。

小学校教員調査 (7)、(7) -1 10-12 頁 参照

中学校教員調査 (7)、(7) -1 10-12 頁 参照



このような集団だと、部活動や委員会活動が充実する、クラス替えが可能になるという意見がありました。

こうした環境は、子どもたちの成長や学びを支えるだけでなく、多様な教員の集団の中で日々学び続けるということは、教員の成長にとっても大切な環境です。複数の教員が学年を運営することで互恵的な学び合いが生まれ、教員の資質能力の向上にもつながります。

地域における学校や通学について

地域住民調査においても、子どもたちの成長、発達のために学校の統廃合は仕方ないという回答が多くなっています。

地域住民調査（４） 7頁、（４） 11頁 参照

統廃合は仕方ないと思う人が多い一方で、統廃合をするなら、子どもたちの通学の負担にならないよう、スクールバスや公共交通機関の活用を町に補助してほしいという意見が見られました。

また、地区から学校がなくなることが人口減少に拍車をかけることになるため、旧町村から学校をなくしてはいけないと、現状維持を望む声も見られました。

合併を経て 15 年になりますが、上志比、永平寺、松岡というエリアの壁の中で、閉じて物事を考える傾向見られます。この閉じた考え方こそが大きな課題であり、今後は、より良い教育環境を町全体としてデザインしていく必要があります。

高校生について

学校の規模についてはちょうど良かったという回答が多くなっていますが、地域によって傾向に違いがみられました。

高校生調査（２） 5頁、（２） 8頁 参照

少人数教育により、きめ細かな教育を受けることができた、すぐに友達になり、他の学年とも交流することができたという声が多くみられました。

少人数教育という環境だけでなく、豊かな自然環境の中で成長できた、地域との交流や社会学習が充実していた、スキー教室をはじめ他の学校ではできないことができたという声も多くみられ、故郷を思う気持ちが強く、自分が住んでいる地区への愛着が深いこともうかがえました。

教育について、永平寺町という大きいエリアでの学びや相互交流を増やすと良いという意見が見られました。また、宿題に苦労したという声も多くみられました。

基礎基本の定着として必要なことではありますが、教員主導の知識の詰め込み、反復による教育だけでなく、自律的な学びが重要です。

基礎基本とのバランスのもと、個別最適化の教育、探究的な学び、協働の学びを推進していく必要があります。

小学校の統合に関する地域の差

1. 地域住民調査 ※ 地域住民調査（4）7頁 参照

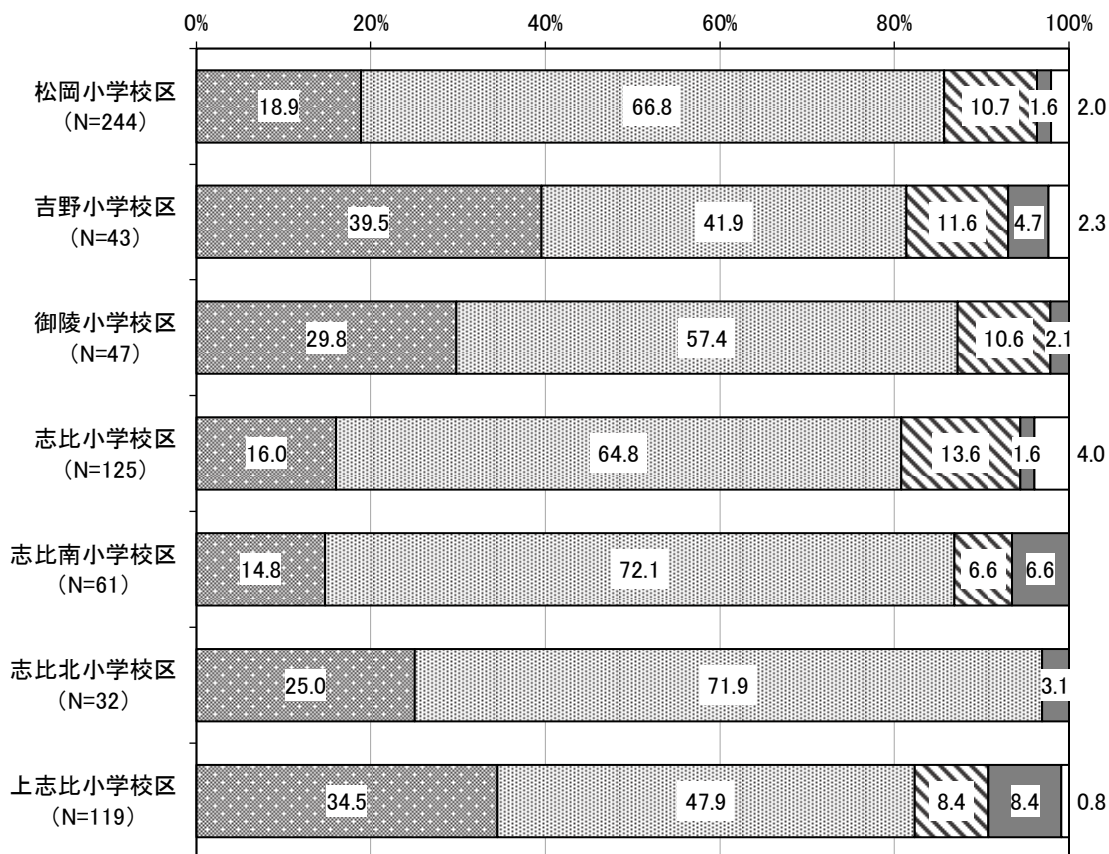
小学校の統合について

どの地区でも、ある程度の適正人数を確保するために、小学校の統合などは仕方ないと思う人が多くなっています。

一方で、吉野小学校区、御陵小学校区、志比北小学校区、上志比小学校区では、小学校の存続を希望する人が約30～40%と、他の小学校区よりも高くなっています。

その中でも、吉野小学校区と上志比小学校区は、統合を仕方ないと思う人が40%程度と、他の小学校区よりも低くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



※ 小学校区について不明・無回答の方は除いているため、各小学校区の母数の合計が回答者の総数と一致しない場合があります。以降の調査についても、同様です。

2. 小学生保護者 ※ 小中学生保護者調査（4）10頁参照

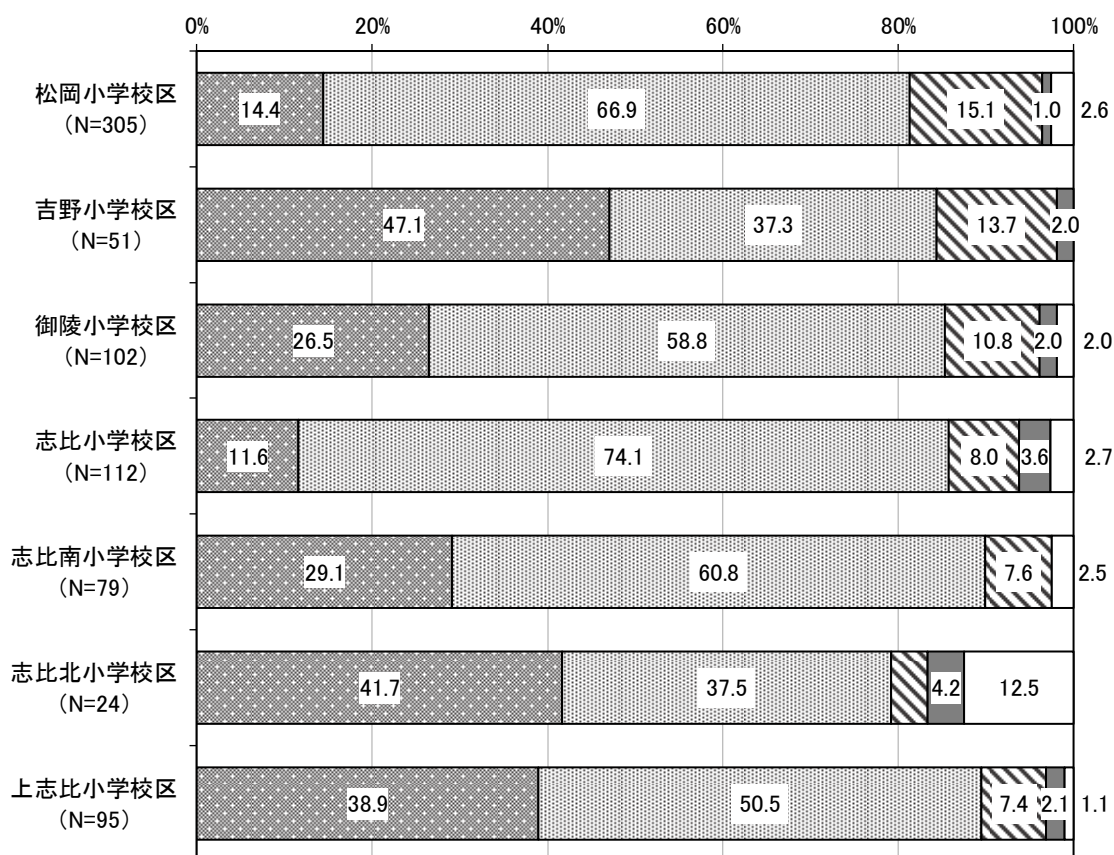
小学校の統合について

吉野小学校や志比北小学校に通う児童の保護者は、他の地域と異なり、学校の相続を希望する人が40%を超え、最も高くなっています。

また、御陵小学校や志比南小学校、上志比小学校に通う児童の保護者は、約30～40%の人が小学校の存続を希望しており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

一方で、松岡小学校や志比小学校に通う児童の保護者は、約70%の人が統合を仕方ないと考えており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が大きくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



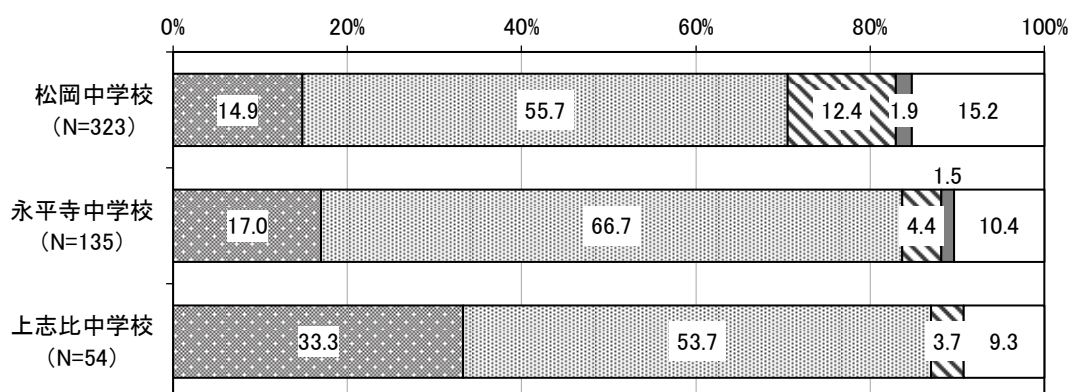
3. 中学生保護者 ※ 小中学生保護者調査（4）10 頁 参照

小学校の統合について

どの中学校に通う生徒の保護者も、小学校の統合を仕方ないと考える人が 50%を超えています。

一方で、上志比中学校に通う生徒の保護者は、小学校の存続を希望する人が 30%を超えており、他の地域よりも高くなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



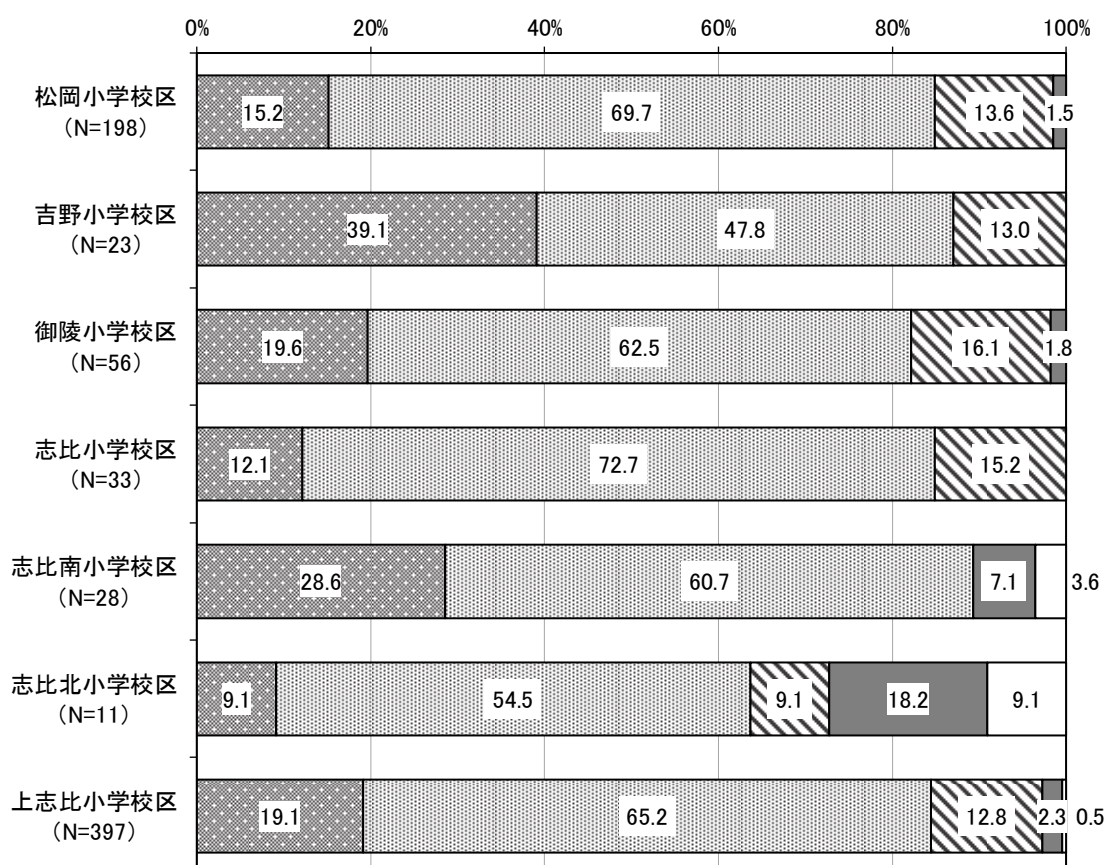
4. 幼稚園・幼稚園保護者 ※ 幼稚園・幼稚園保護者調査（3）6頁 参照

小学校の統合について

ほとんどの小学校区において、統合などを仕方ないと考える人が50%を超えています。その中でも、松岡小学校区と志比小学校区では、統合などを仕方ないと考える人が約70%と、他の地域よりも高くなっています。

一方で、吉野小学校区は小学校の存続を希望する人が約40%と、他の地域よりも多くなっており、統合を仕方ないと考える人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



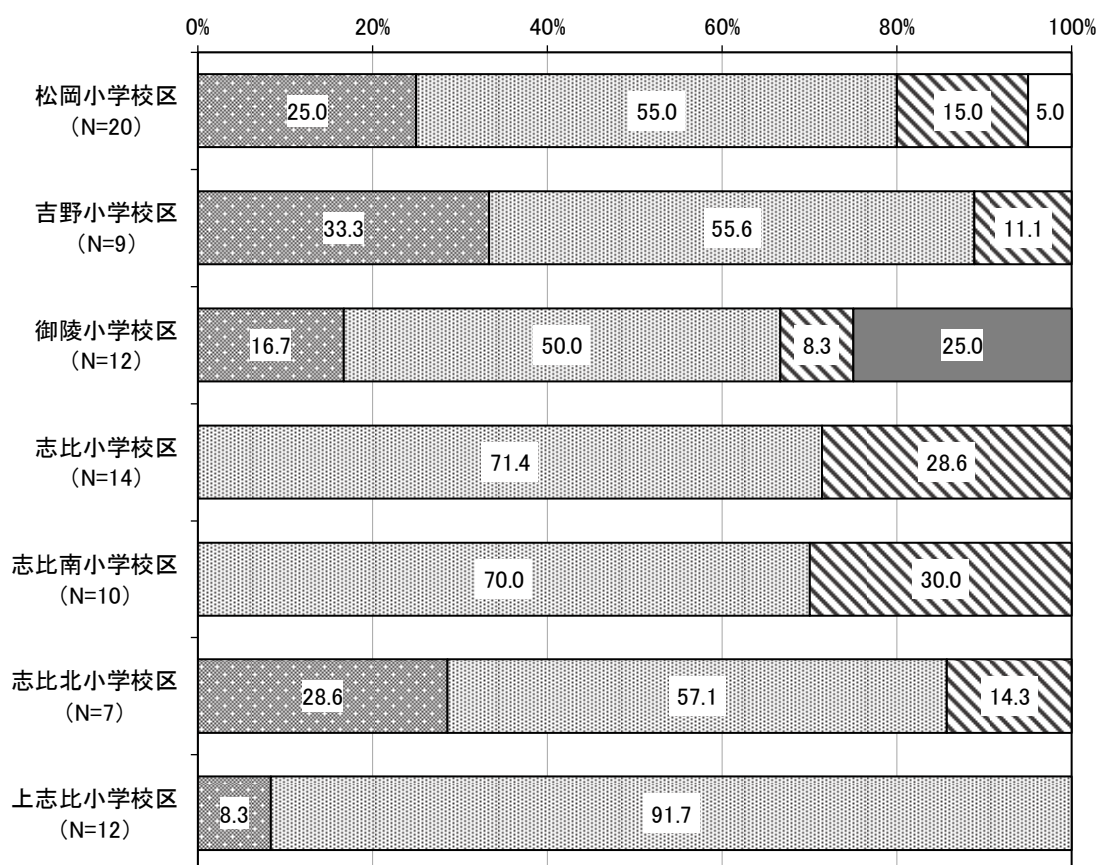
5. 小学校教員 ※ 小学校教員調査（5）8頁 参照

小学校の統合について

どの小学校でも、統合などを仕方ないと思う人が50%を超えています。その中でも、志比小学校と志比南小学校では、統合などを仕方ないと思う人が約70%と、他の地域よりも高くなっているほか、小学校の存続を希望する人が見られません。

一方で、吉野小学校は小学校の存続を希望する人が30%を超え、他の地域よりも多くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

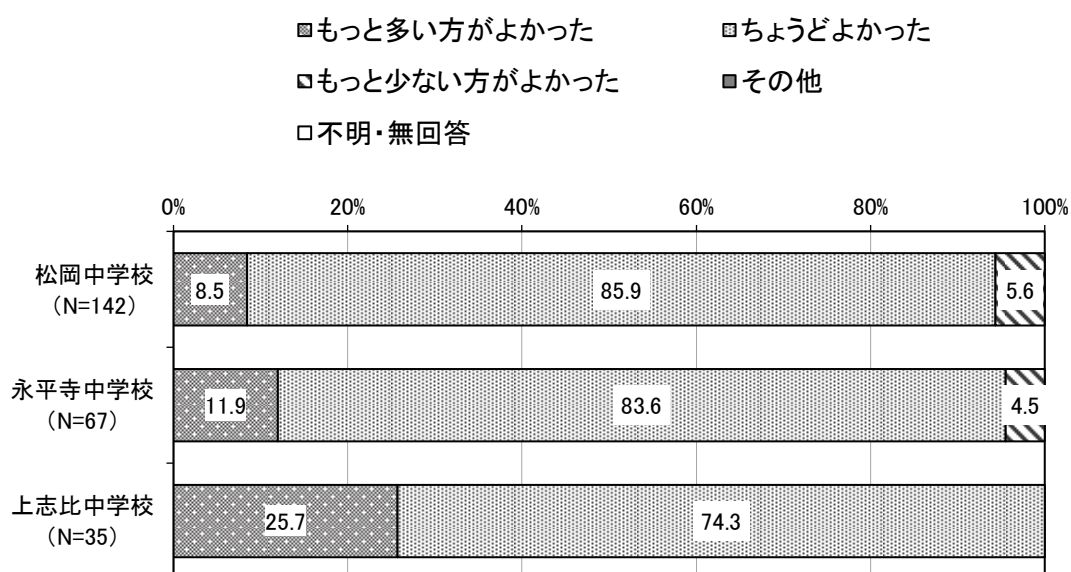


6. 高校生 ※ 高校生調査（2） 5 頁 参照

自分が通っていた小学校の1学級あたりの児童数について

どの中学校においても、自分の通っていた小学校の1学級あたりの児童数をちょうどよかったと考える人が70%を超えています。

その中で、上志比中学校では、児童数をもっと多い方がよかったと考える人が25.7%となっており、他の中学校よりも10ポイント以上高くなっています。また、他の中学校と異なり、もっと少ない方がよかったという回答が見られません。



7. とりまとめ

小学校の統合について

ほとんどの調査において、吉野小学校区、上志比小学校区では、小学校の存続を希望する人が多いという傾向がみられます。

また、これらの小学校区では、統合を仕方ないと考える人の割合が概ね低く、統合を仕方ないと考える人と小学校の存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

特に、現在吉野小学校や志比北小学校に通う児童の保護者は、小学校の存続を希望する人が最も多くなっています。



全体の結果として、小学校の統合を仕方ないと考える人が多いという結果になっていますが、小学校区や調査ごとに分析すると、それぞれ統合を仕方ないと考える人や小学校の存続を希望する人の割合に地域差があるということがうかがえます。

中学校の統合に関する地域の差

1. 地域住民調査 ※ 地域住民調査（4）11頁参照

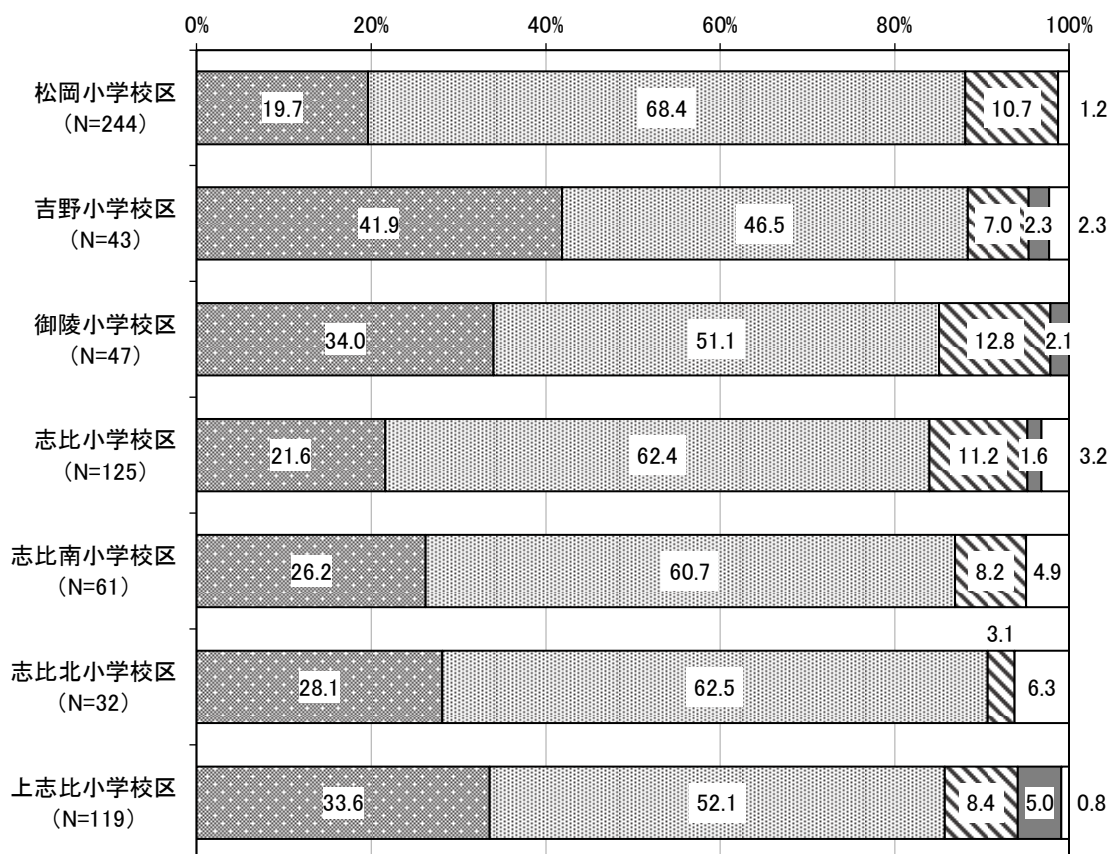
中学校の統合について

どの地区でも、ある程度の適正人数を確保するために、中学校の統合などは仕方ないと思う人が多くなっています。

一方で、吉野小学校区、御陵小学校区、上志比小学校区では、中学校の存続を希望する人が30%を超えており、他の小学校区よりも高くなっています。

その中でも、吉野小学校区は、統合を仕方ないと思う人が約40%と、他の小学校区よりも低くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



※ 小学校区について不明・無回答の方は除いているため、各小学校区の母数の合計が回答者の総数と一致しない場合があります。以降の調査についても、同様です。

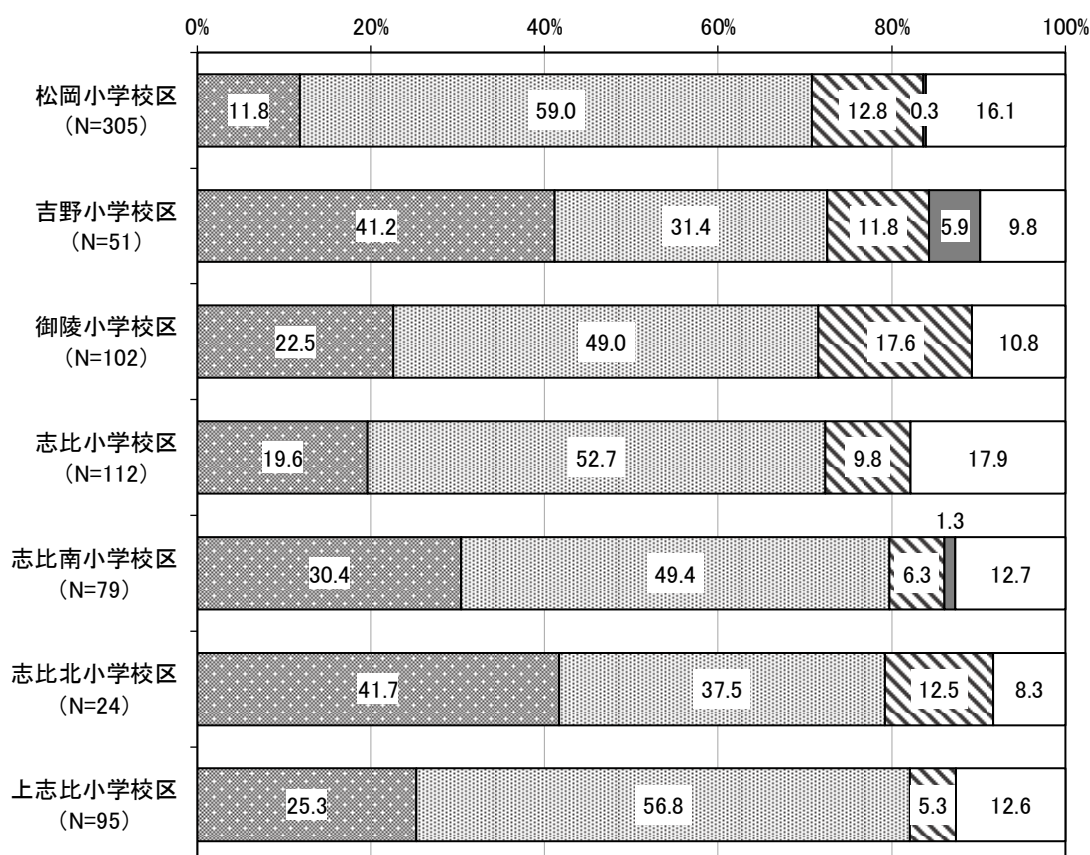
2. 小学生保護者 ※ 小中学生保護者調査（4）20頁参照

中学校の統合について

吉野小学校や志比北小学校に通う児童の保護者は、他の地域と異なり、中学校の存続を希望する人が40%を超え、最も高くなっています。

また、地域住民調査と比較すると、小学生保護者において上志比小学校区のみ、統合を仕方ないと考える人の割合が高くなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続してほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



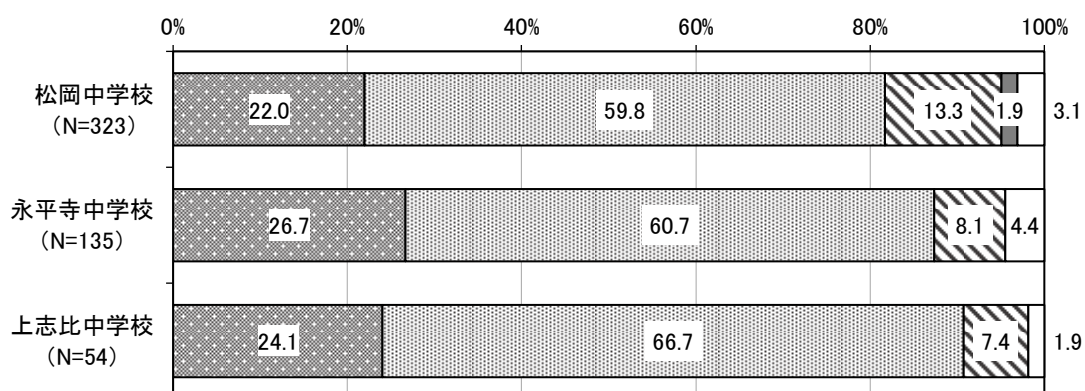
3. 中学生保護者 ※ 小中学生保護者調査（4）20 頁 参照

中学校の統合について

どの中学校に通う生徒の保護者も、中学校の統廃合を仕方ないと思う人が 50%を超えています。

また、どの中学校に通う生徒の保護者も中学校の存続を希望する人が 20%台となっており、大きな差はみられません。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



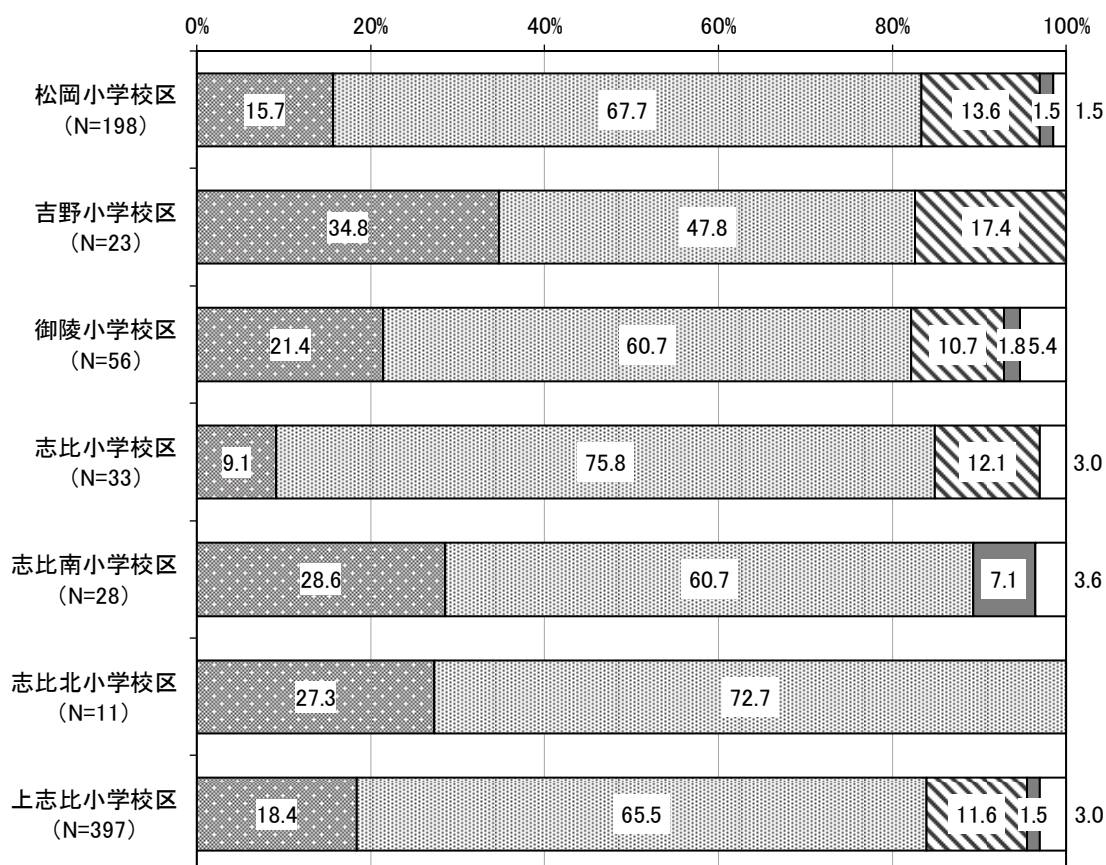
4. 幼稚園・幼稚園保護者 ※ 幼稚園・幼稚園保護者調査（3）14 頁 参照

中学校の統合について

ほとんどの小学校区において、統合などを仕方ないと思う人が 60%を超えています。その中でも、志比小学校区と志比北小学校区では、統合などを仕方ないと思う人が 70%を超え、他の地域よりも高くなっています。

一方で、吉野小学校区は中学校の存続を希望する人が約 35%と、他の地域よりも多くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



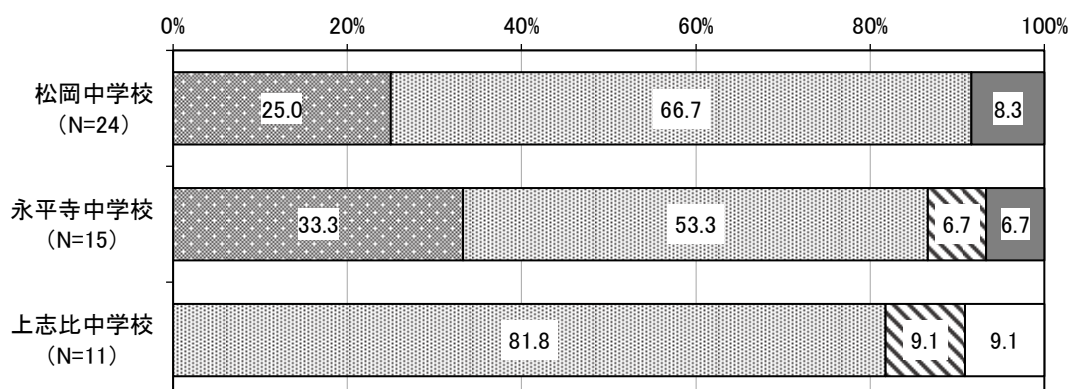
5. 中学校教員 ※ 中学校教員調査（5）8頁 参照

中学校の統合について

どの中学校教員でも、統合などを仕方ないと思う人が 50%を超えています。その中でも、上志比中学校では、統合などを仕方ないと思う人が約 80%と、他の中学校よりも高くなっているほか、中学校の存続を希望する人が見られません。

一方で、永平寺中学校は中学校の存続を希望する人が 30%を超え、他の地域よりも多くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ▣ ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

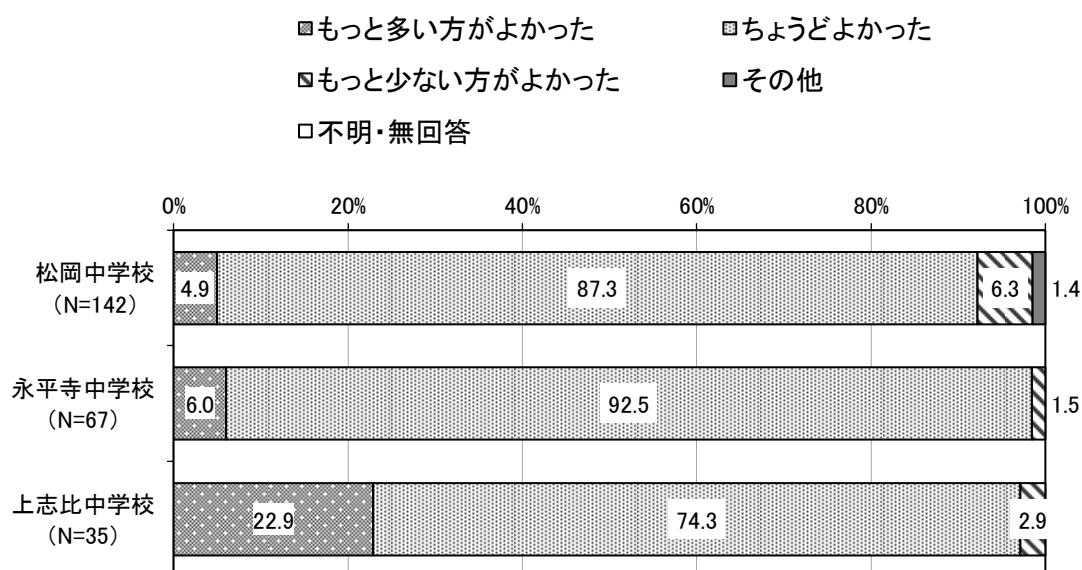


6. 高校生 ※ 高校生調査（2）8頁参照

自分が通っていた中学校の1学級あたりの生徒数について

どの中学校においても、自分の通っていた中学校の1学級あたりの生徒数をちょうどよかったと考える人が70%を超えており、特に松岡中学校と永平寺町学校では約90%となっています。

その中で、上志比中学校では、児童数をもっと多い方がよかったと考える人が22.9%となっており、他の中学校よりも15ポイント以上高くなっています。



7. とりまとめ

中学校の統合について

ほとんどの調査において、吉野小学校区、志比北小学校区では、中学校の存続を希望する人が多く、統合を仕方ないと思う人の割合が概ね低くなっており、統合を仕方ないと思う人と小学校の存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

特に、現在吉野小学校や志比北小学校に通う児童の保護者は、中学校の存続を希望する人が最も多くなっています。



小学校の統合への意識と同様に、全体の結果として、中学校の統合を仕方ないと思う人が多いという結果になっていますが、小学校区や調査ごとに分析すると、それぞれ統合を仕方ないと思う人や中学校の存続を希望する人の割合に地域差があるということがうかがえます。

永平寺町学校のあり方検討のためのアンケート調査 記述概要

アンケート調査では、関心が低い層からは記述回答が無回答であったり、ご意見をいただけないケースがほとんどです。

今回実施した調査では、多くの記述回答をいただきました。また、ご意見だけでなく、具体的な提案をされる方々もみられ、熱心に回答していただきました。

1. 小中学生保護者調査

小学校で重視すること、求めること

小学校の学習で重視しているものについて、

- 道徳性(あいさつ、思いやり、協調性)
- 自主性
- 自分で考え、思いや考え方を相手に伝えられる能力

という回答がみられました。

小学校に求めるもの(課題・要望)について、

- 町外の児童との交流がない
- 1学年の人数が少なく、クラス替えがなく、人間関係が限られてしまった
- 小学校の垣根を超えた活動があると良い
- 地域の方から学んだことをテーマにグループディスカッションやグループミーティングを実施するなど、アウトプットできる場があると良い
- 地域資源を活用すること(町内にある2つの国公立大学との連携)

という回答がみられました。

中学校で重視すること、求めること

中学校の学習で重視しているものについて、

- 学力を伸ばすこと(県内でも学力のレベルが高い)
- 進路や職業を広く知ること
- 多角的なものの見方や考え方を身につける

という回答がみられました。

中学校に求めるもの(課題・要望)について、

- 地域の特徴をもっと生かす必要がある
(地域や大学と連携を深め、地域の課題を一緒に考えられる場が必要)
- お金に関する学習があると良い
- クリエイティブな学習が必要(SDGsの学習をしてほしい)

という回答がみられました。

2. 幼稚園・幼稚園保護者調査

小学校で重視すること、求めること

小学校の学習で重視しているものについて、

- 時代に対応した能力の育成
(自分なりの考え方、多様性を認められるようになる)
- 危険を回避する能力の育成(防災に関する知識の醸成)

という回答がみられました。

小学校に求めるもの(課題・要望)について、

- 子ども達が自ら足を運び、実際に見学・体感できる場や機会を積極的につくる
- という回答がみられました。

中学校で重視すること、求めること

中学校の学習で重視しているものについて、

- 自分の考えを言葉にして周りに伝える能力の育成(ディベートやプレゼン)
- 進路や職種を知り、自分の将来への道筋をつくること

という回答がみられました。

中学校に求めるもの(課題・要望)について、

- 地域の特色をもっと生かす必要がある
(2つの大学と連携した取組、実験室の見学)
- 自分の故郷を自慢でき、帰りたくなる気持ちを持たせる必要がある
- 地域と連携し、総合学習を強化し、学んだことを地域に発信する

という回答がみられました。

3. 地域住民調査

小学校で重視すること、協力できること

小学校の学習で重視しているものについて、

- 道徳教育
(良い悪いの判断ができる心の育成、社会のルールやマナーの学習)
 - 自分と異なる存在を認めること
 - 個性を伸ばす教育
 - 答えがない事柄に関して考える能力の養成
 - 地域との交流(あいさつ等)
 - ICT 教育やメディアリテラシー教育
- という回答がみられました。

協力できることについて

- 学校行事への参加、PTA への参加
 - 学習支援、ボランティア
(休日や放課後の宿題などの学習支援、スポーツの指導、登下校の見守りなど)
- という回答がみられました。

中学校で重視すること、協力できること

中学校の学習で重視しているものについて、

- 自己と他者への尊重、他者への配慮を身につけること
 - 命の大切さに関する学習
 - キャリア教育
 - 経済活動・金銭感覚の基本を教え、財政・金融投資の基本の流れを理解させる
- という回答がみられました。

協力できることについて

- 学校行事への参加、PTA への参加
 - 学習支援、ボランティア
(学校支援ボランティア、福祉ボランティア授業への協力、登下校時の声かけなど)
- という回答がみられました。

4. 小学校教員・中学校教員調査

望ましい教育環境（小学校）

小学校における望ましい教育環境について、

- 地域と進める体験活動が効果をあげており、継続することが重要
- ICTの指導時間を増やす
- 地域へ出かけたり、交流したりして、永平寺町を知ることが重要
- 家庭、学校、地域がつながり、社会全体で子どもの発達・成長を見守る環境づくりが必要
- 町内の他校との交流がもっとできると良い

（1学年1学級しかない学校もあり、横のつながりが大事）

という回答がみられました。

望ましい教育環境（中学校）

中学校における望ましい教育環境について、

- 地域に出ていく機会、地域の人と意見交換をする機会を設けるなど、探求課題設定の種まきが必要
- ふるさと学習で学んだことをプレゼンし合う合同発表会が必要
- ICTが導入されたため、他の学校との交流機会が増えると、生徒への刺激になる
- 家庭と学校が生徒のために協力できるようになると良い
- 地域の方が学校にはいること、学校から地域に出かけることで、生徒にも学びの機会になる

という回答がみられました。

5. 小学2～4年生調査

クラスの良いところ

クラスの良いところについて、

- けんかをしない
- みんなで協力できる、助け合える
- 声が大きく、良いあいさつや返事ができる
- 授業がわかりやすい
- 先生が優しい

という回答がみられました。

どんなクラスになってほしいか

どんなクラスになってほしいかについて、

- けんかをしない、いじめのないクラスになってほしい
- みんな仲良く、やさしくしてほしい
- 支え合い、協力して活動したい
- もっと遊具を増やしてほしい

という回答がみられました。

学校ではどんなことが楽しいか

学校で楽しいことについて、

- 友達と遊ぶこと、話すこと、友達に会えること
- スポーツをすること(サッカー、ドッジボール、水泳、鉄棒など)
- 授業が楽しい(理科、図画工作など)
- 校外学習が楽しい(こども歴史文化館、えい坊館など)
- 給食

という回答がみられました。

5. 小中学生調査

小中学校の良いところ

小学校の良いところについて、

- クラスの仲が良い、思いやりがある
- にぎやかで楽しい(明るい、元気が良い)

という回答がみられました。

中学校の良いところについて、

- 男女や学年を問わず、仲が良い
- 明るい、元気がある
- 礼儀が良い(あいさつが良い)

という回答がみられました。

小中学校の良くしたいところ

小学校の良くしたいところについて、

- グループなどの関係なく、もっと仲良しにしたい
- 学年を超えて、もっとふれあえるようにしたい

という回答がみられました。

中学校の良くしたいところについて、

- 他のクラスや他校の人とも仲良くしたい
- 学校全体で協力・団結できるようになりたい
- もっとメリハリをつける(授業中と休み時間の切り替えなど)

という回答がみられました。

小中学校で希望すること

小学校で希望することについて、

- ipad が導入されたので、他校とリモートで授業したり、話したりしたい(交流)
- 学年を超えて、もっとふれあえるようにしたい
- 高校生や大学生の人とも交流したい

という回答がみられました。

中学校で希望することについて、

- 他の学校や他県とのリモートでの交流(リモート以外の形での交流など)
- 中学校でも連合体育会をしたい

という回答がみられました。

6. 高校生調査

小学校の良かったところ・良くしたかったところ

小学校の良かったところについて、

- 明るくて元気、仲が良い
- 自然が豊かで学習環境が整っていた
- スキーの授業が良かった
- 給食がおいしかった

という回答がみられました。

小学校の良くしたかったところについて、

- 文化祭、スポーツなどの行事、校外学習を増やしてほしい
- という回答がみられました。

中学校の良かったところ・良くしたかったところ

中学校の良かったところについて、

- 男女の仲が良く、喧嘩もなく、学校全体の仲が良かった
- 協力できるクラスだった
- イベントや学校行事が楽しかった
- 部活が充実していた

という回答がみられました。

中学校の良くしたかったところについて、

- 宿題が多かった
- もっとメリハリがなかった
- 部活動の選択肢が限られていた

という回答がみられました。

学校のあり方検討スケジュール（R3.4 修正版）

令和元年

12/25 第1回委員会

令和2年

2/3 委員長・副委員長打ち合わせ（アンケート内容・第2回委員会開催日程）

（アンケート修正期間（庁内検討））

9/25 第2回委員会

（アンケート修正期間）

12/23 第3回委員会

（アンケート再修正、印刷・発送準備期間）

令和3年

1月下旬 アンケート発送

児童生徒：1,299、児童生徒保護者：1,100、高校生：565、園保護者：470、
住民：1,500（19才以上人口の約1割）、教員：136
計：5,070

2月末 アンケート回収〆切

児童生徒：1,278（98.4%）、児童生徒保護者：1,066（96.9%）、高校生：254（45.0%）、
園保護者：397（84.5%）、住民：686（45.7%）、教員：136（100%）
計：3,817（75.3%）

3月下旬 集計・分析

4/12 委員長・副委員長打ち合わせ（アンケート結果確認・今後の進め方確認・第4回委員会開催日程）

（第4回委員会資料作成・資料修正・開催通知発送・各団体内協議期間）

6/25 第4回委員会（アンケート結果提示、答申案骨子検討）

※諮問事項の「(1) 望ましい教育環境のあり方」および「(2) 地域と連携した学校づくりのあり方」について、第1回目でいただいたご意見やアンケートの結果等を基に、委員長・副委員長で答申のたたき台を作成し、委員会に諮る。

（第5回委員会資料作成・資料修正・・・開催通知発送・各団体内協議期間）

8月 第5回委員会（答申案検討）

（第6回委員会資料作成・資料修正・・・開催通知発送・各団体内協議期間）

10月 第6回委員会（答申案検討）

（第7回委員会資料作成・資料修正・・・開催通知発送・各団体内協議期間）

11月 第7回委員会（答申案確定）

（答申案最終修正期間）

12月 答申

永平寺町のアンケート考察に係る委員長整理

R3, 6, 25

- アンケートの回収率の高さ、白紙記述の少なさ、町民の皆様の意識の高さ、ご協力に心から感謝したい。
- アンケートは、民意を知る上での重要な情報なので、結果を参考にして、答申をまとめていきたい。なお、アンケートの概要については、プライバシー等に配慮して、答申の中に盛り込みたい。
- 子どもたちの声を大切にしたい。今回のアンケートによって、子どもたちが、授業や宿題等について、どのようなことに挑戦したいのか、やってみたいのか、また、物足りなかった、疑問を感じていた、ということについても実態が見えてきた。このような子どもたちの声に大人たちはどう応えていくとよいのか、大いに参考にしたい。
- 小中学校の保護者は、適正規模が必要な理由を様々な観点から記述している。
多種多様な価値観に触れるため。集団の中で多様性やルールを学ぶため。男女の程よいバランスの中で学ぶことは大切。コミュニケーション力を高めるため。団体競技に必要な人数の確保。合唱、スポーツ、ディスカッションで人数が少なすぎると成立しない。部活動の数を確保して選択の幅を広げるため。ディベート学習を行うとき。ある程度の人数がいないと行事が成り立たない。協調性を学ぶため。友人関係が固定されないため。他のクラスとの交流・比較・競争も必要。話し合いの活性化。いろいろな意見が出やすい。「同じ」と「違う」について両方考えられる。同学年同士の交流も必要。少なすぎると新しい環境に順応しにくい。トラブルがあった場合に逃げ場がない。クラス替えが必要。マイノリティへの配慮を学べない。少なすぎると学習の勢いが出にくい。視野を広げるため。切磋琢磨することも大切。社会性を身に付けるため。財政面でも効率的。 等
- 現在、小規模の学校、学級に通わせている保護者は、概ね丁寧できめ細かな教育の現状に満足をしている。
- 幼稚園、保育園の幼児の保護者は、地域の人々や現在の小中学校の保護者に比べて、統合による適正規模化をより望んでいる傾向がみられる。
- 地域住民は、自分たちの地区に誇りとプライドを持っている。学校の教育や環境についての関心が高く、できることがあれば協力したいという人が数多くいる。適正規模は教育環境において重要で、統合も仕方ないという声が多数であった。ただし、地区から学校が無くなることで人口減に拍車をかけるから、「学校をなくしてはいけない」という現状維持を望む声も、一定数あった。人口減少問題は学校だけで考えるのではなく、町政全般の問題として考えるべきで、今回の答申についていえば、あくまでも子どもたちの成長発達にふさわしい環境をどうするというところで議論すべきという意見があった。町村合併をして15年になるが、教育においては上志比・永平寺・松岡のエリアの中でそれぞれの学校が閉じて物事を考えているという指摘があった。より相互交流を盛んにして、協働でカリキュラム作りをするなど、町全体としてデザインする必要がある。
- 教育についての専門職である小中学校の教員からの悉皆調査は注目すべきことで、先生方の声を尊重したい。先生方は、適正規模について、自身のこれまでの学校での教育実践を振り返り、未来の展望をはっきりと描いている。1学級10名以下の人数が常態化した場合は、よりよい環境とは言えず、統合について該当地域との話し合いを持つ必要がある。
 - ・小学校においては、最低限度1学級10名の人数は必要で、できれば1学級20名前後の学年複数クラスを理想的と答えている。
 - ・中学校においては、発達段階から集団の中で多様な意見等に触れ、より大きな集団で切磋琢磨して協働で学び合う環境が必要であるとして、学年複数クラス、できれば4クラス、1学級20名前後が理想的であると答えている。
 このような集団の中だと部活動、委員会活動が充実し、クラス替えも可能になる。こうした環境は、子どもたちの成長や学びを支えるだけでなく、教師集団の成長にとっても大切な環境となる。
- 具体的な学校の統合については、小学校の場合、地域住民、保護者、教員等の立ち場によって考え方が微妙に異なることが多い。中学校の場合は、小学校よりも適正化の必要性を感じており、特に上志比中学校の統合に関する意見がどの立場からも出されている。
- 高校生は故郷を思う気持ちが強く、自分の住んでいる地区への愛着心が強い。おいしい給食に感謝している生徒も多かった。一方で永平寺町という大きなエリアでの学びや相互交流を今後増やすとよいと考えている。宿題に苦労したという声も多かった。基礎基本の定着は必要なことだが、教師主導の知識の詰め込み、反復による教育だけでなく、自律的な個に応じた学びを求めている。このことは、これから求められる個別最適化の教育、探究的な学び、協働の学びの視点からの指摘であり、重要と考える。
適正規模については、上志比中、永平寺中、松岡中出身の生徒に差が見られた。それぞれの経験を踏まえて、高校生が統合等についてどのような意識を持っているのが分かり、興味深い。
- 小中学生は、素直、まじめで健全に育っている。より多くの人とICT等を活用して、対話的な学び、探究的な学び、協働的な学びに挑戦したいと考えている。学びに対する意欲、ポテンシャルが高い。このような子どもたちの思いに大人がどう応えていくのか。今回の答申の中で明記していきたい。
- ふるさと教育について、教員は、町全体での交流が課題だとして、積極的な展開を望んでいる。教員の働き方改革にも配慮する必要があり、コーディネーターや人材バンク、予算的支援等が不可欠である。町全体でカリキュラムを作り、探究的なプロジェクト学習を協働で展開できるようなカリキュラム改革が必要になる。そのためには、教師の協働、各機関と学校との連携が一層必要となり、エリア全体でのシステム作り、仕組みづくりが求められる。
永平寺町では、豊かな自然、歴史、文化に恵まれ、教育機関である大学等との連携も期待できる。また、地域の人々は学校に対して協力的で地域の教育力は大きな財産でもある。ふるさとの魅力的な資本を教材として生かしたい。課題としては、これまでの旧町村のエリアを超えた取り組み、協働的な学びが挙げられる。ICTも活用して、地域全体の学び合いが深まるよう、今後のカリキュラム開発、教員研修等に期待したい。
- コロナ禍への対応としては、ICTの活用、オンライン型の授業ができる環境整備が必要で、スピード感をもって推進すべき。いろいろな状況に対応できる備えが必要で、対面型の教育を大切にしつつも、オンライン教育とのバランスを考える必要がある。

第4回 永平寺町学校のあり方検討委員会

アンケート調査結果がしめす
永平寺町のこれからの学校・学び

福井大学連合教職大学院教授 木村優

(1) これから学校でやってみたいこと (小中学生)

- ! " # \$ % & ' () * + , - . / O 1
- ; < = > ? @ A . B < C D E O 1
- 2 3 4 5 6 7 8 . 9 : O 1

永平寺町の81.3%~94.5%の小中学生が

あたらしい学びに挑戦したい

意欲 / 希望 / 展望をもっている / 秘めている

